

消 息

日本医史学会関西支部例会

共催 医学切手友の会関西支部

と き 一九九四年二月二十日(日)正午～午後五時半

と ころ (財)白鹿記念酒造博物館(西宮市鞍掛町八一二一)

見 学 吉祥・福の神展、その他博物館内見学随時

講 演 あいさつ 白鹿記念酒造博物館 寺岡 武彦

一、宝船について 堀内 冷

二、法華寺の犬守り切手 石原 理年

(長門谷洋治)

例会抄録

『医外史』の研究

小 池 猪 一

医史学は、人を医し、国を医し、人々を正しく導いた“先賢医人”といわれた医師や、無名で不朽の成果を遺した医師の

医学上の事蹟を科学技術という視点から究明せんとする学問であると定義づけることができる。

しかし、それとは別に、一般史の視点から医学の進歩に大きな役割を果たした数々の意外な事象を見逃せないことから、『医外史』と名付けて研究することも医史学に裨益するものと思われる。

その最も顕著な史実としてあげられるのは、医学伝藩の道のり”の重要な役割を果たした次の四点をあげることができる。

(1) 大名の参勤交代の旅。

(2) 江戸、京都、大坂各藩邸間の情報交流。

(3) オランダ商館長一行の江戸参府の旅。

(4) 「鎖国令」という法令はなかった史実。

参勤交代の旅には、各藩とも大名に最も信頼された侍医が“四人肩”といわれた駕籠で行列の最後部に随行し、供の者が薬品、道具、医書まで持参して旅をした。特に高名な医師を召しかかえた藩が、川止めなどで滞在したり、街道筋の本陣に宿泊している場合、伝手を求めて近くの医師も競って医学上の新しい技術の教えを受け、新しい医師が各地に伝播されるルートが確立されていった。

また、徳川幕府の幕藩体制が軌道に乗ると、各藩は江戸に上、中、下屋敷を持ち、京都、大坂藩邸を持っていた。これらの藩邸には医師が常駐して医療に従事し、門弟を集めて教育を行う医師もいた。これらの藩医は藩の意識よりも医療と